



認知症サポーターキャラバン



筒渕恵子

みなさん！こんにちは！キャラバンメイトの筒渕です!!

毎朝体重計とにらめっこしてため息をついてます。

今回は「介護している家族の気持ち」というテーマで

お届けします。

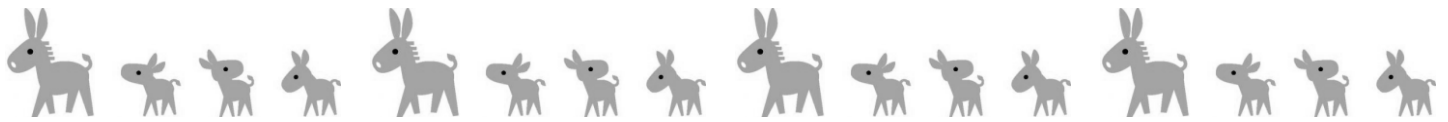
我が家は60代の私達夫婦と30代の息子と90代の私の母の4人暮らしです。8年前に実家の父が体調を崩し、病院や買物等の運転が出来ずに不便な思いをしていました。高齢者夫婦二人暮らしでしたので、父の介護をしていたのは母ただ一人でした。夏場は私が冬は夫が運転して両親を興部の内科病院と、紋別のリハビリ病院に連れて行き帰りにスーパーで買い物をしていました。最後の1年くらいは病院の中は車椅子状態でした。時折、父から電話で「ばあちゃんを買物に連れて行ってくれ」と来るので連れて行くのですが、車中、「友達のいないこんな所に来るんじゃないかった」と母が愚痴をこぼします。最初は黙って聞いているのですが、毎回なので「じゃ、何で来たの？来ていなかったら、兄も私も生まれてなかったね」と言うと笑いながら「そうだね」と、言うのです。

札幌の兄が泊まりに来ても、二人きりの時には同じ事を言うそうです。そんな時、兄は「新潟から1人来て大変だったよね。僕達を育ててくれてありがとう。一緒に暮らせなくてごめんね。」と、言ったそうです。うまいですね。どこで覚えたのでしょうか(笑笑)

母はその言葉に満足し兄を褒めます、「あんたと違って〇〇はやさしいね。あんたは父さん子だから」ってそんな母と同居して8年、耳には補聴器、目は緑内障それでも日常生活には支障が無く、日課の散歩と買物そして毎週土曜日の兄との電話。

それでも老いは確実にくるもので、町立病院に1人で通院出来たのが2、3年前から私が付き添うようになった。先生の話が聞き取りづらくなったらしく不安になっただけ。それでなのか、通院日が近づくたびに血圧も高くないし、目もちゃんと見えるしと何かしら理由を付けて行くのを嫌がる様になってきた母に対して「兄が了承したら行かなくてもいいよ。」と、言うので諦めるのです。(笑)





前回に続き、ロバの会「認知症学習会」についてです。

<片野先生へ参加者から追加質問と回答(抜粋)>

質問1 下川に血縁関係の身内がない人は、自分が認知症になったときどうしたらよいか…?

⇒ 病院として、地域包括支援センターにつないで連携を取って、訪問看護、訪問介護(ヘルパー)などで、本人をサポートすることができます。

質問2 私は一人暮らしで、地元には家族がいないんですけど…。

⇒ お盆やお正月など子供や親族が集まったときに、自分の希望や今後の話をぜひしてください。

質問3 お酒が好きなんですけど、認知症にアルコールは良くないですか?

⇒ 適度のアルコールは問題ありませんが、飲みすぎると認知機能低下を招くことがあります。

<会の感想より>

認知症かなーと思ったら、まずは町立病院へ行くこと。

町立病院では、長谷川式検査や脳のCT、内科的病気がないか調べてくれることがわかりました。そして希望すれば専門医にもつなげてくれるとのこと。

最後に片野先生がおっしゃった

「下川は、人口 3,000 人弱の過疎の町だが、町立病院がいつでも対応し、施設が特養をはじめ民間も 2 つある、恵まれている町です。」

この言葉にすごく安心しました。

私事ですが、この度キャラバン・ロバの会を卒業させていただくことになりました。私のつたない通信や講話を聞いてくださりありがとうございました m(_)m 齊藤千香子

【お問い合わせ】 キャラバン・ロバの会
坂入奈緒美、杉田鈴子、杉之下真由美、竹本礼子、
寺田律子、筒渕恵子
代表 杉之下 ☎ 090-9752-1180
地域包括支援センター ☎ 5-1165(いろいろご)

